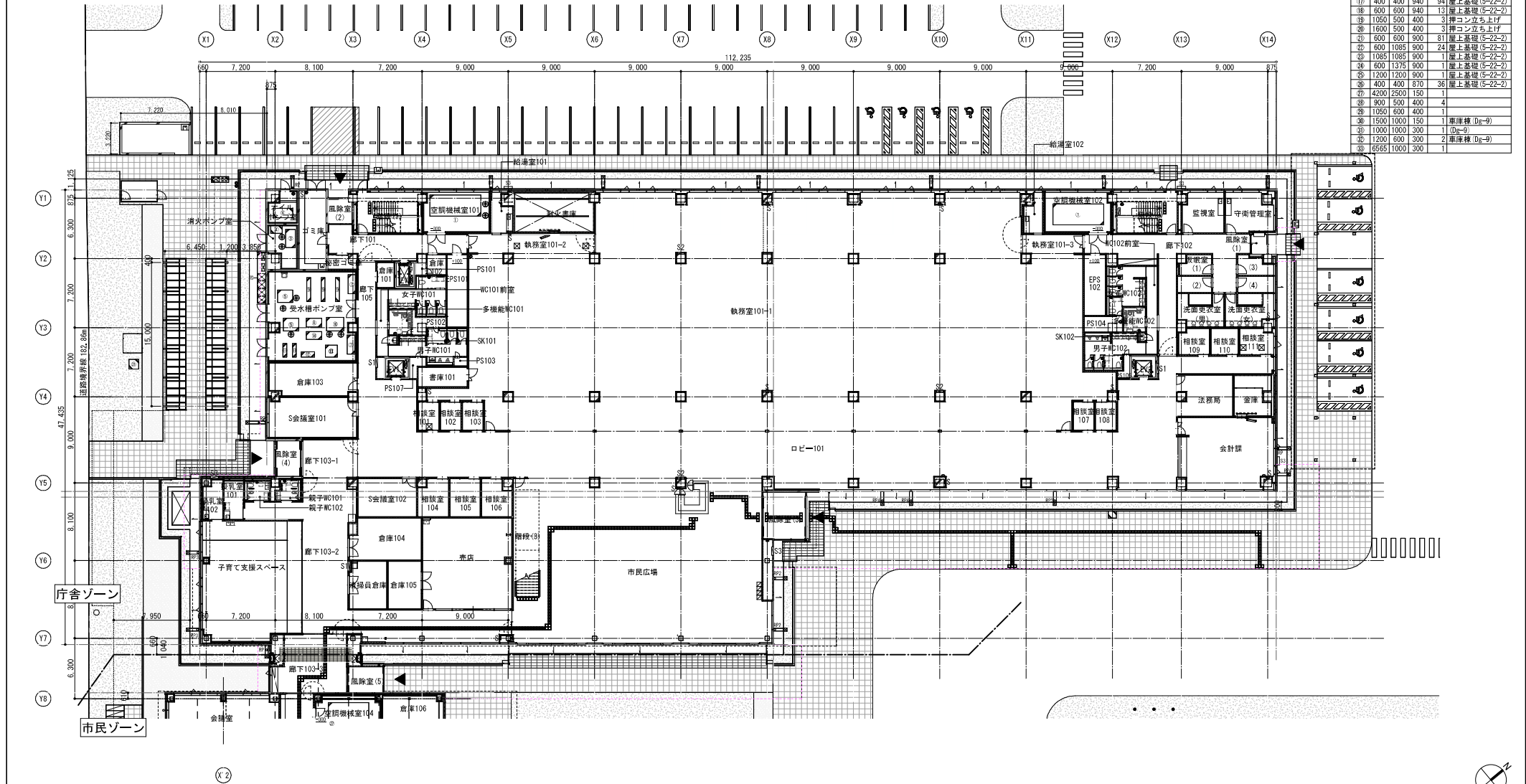
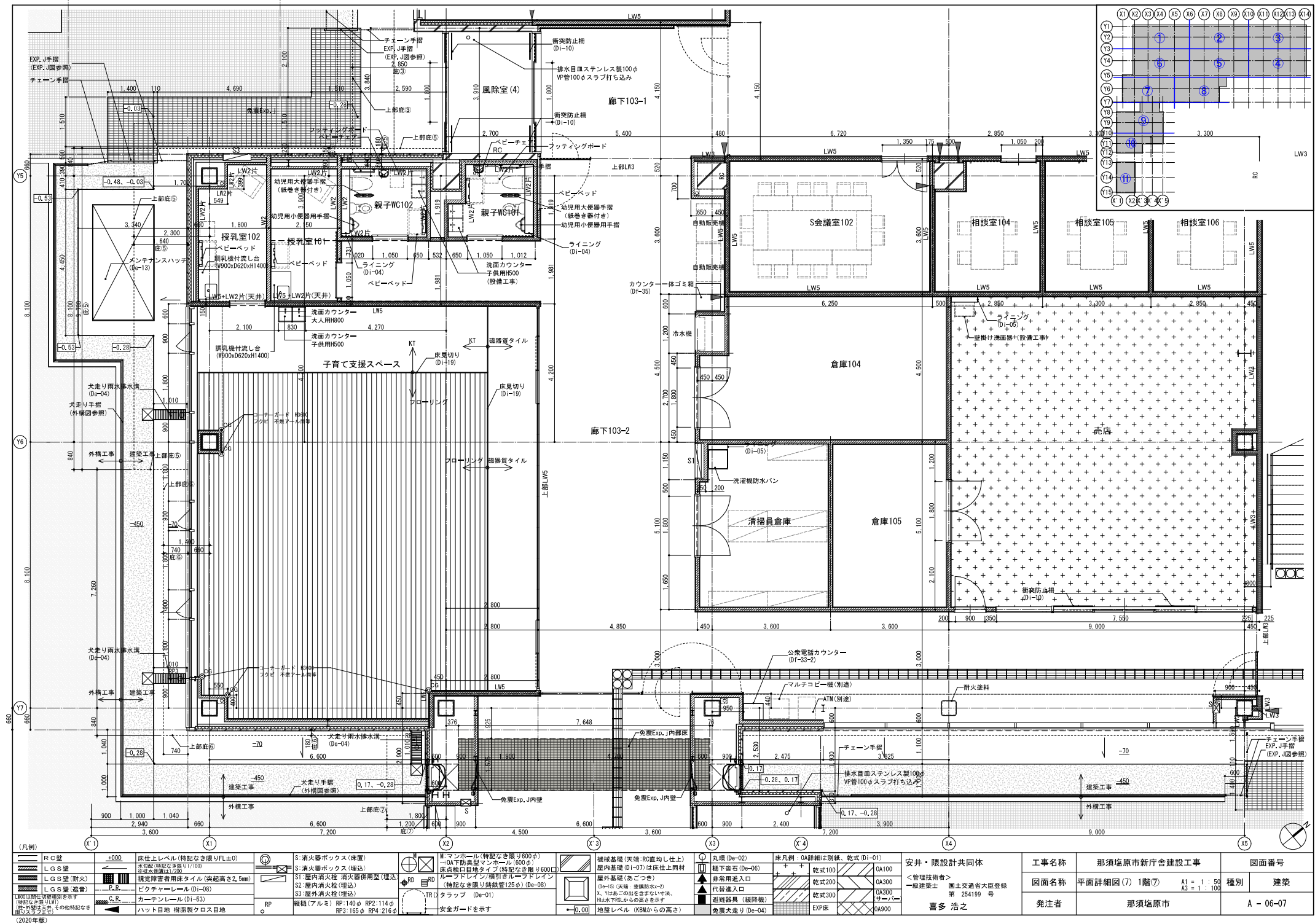


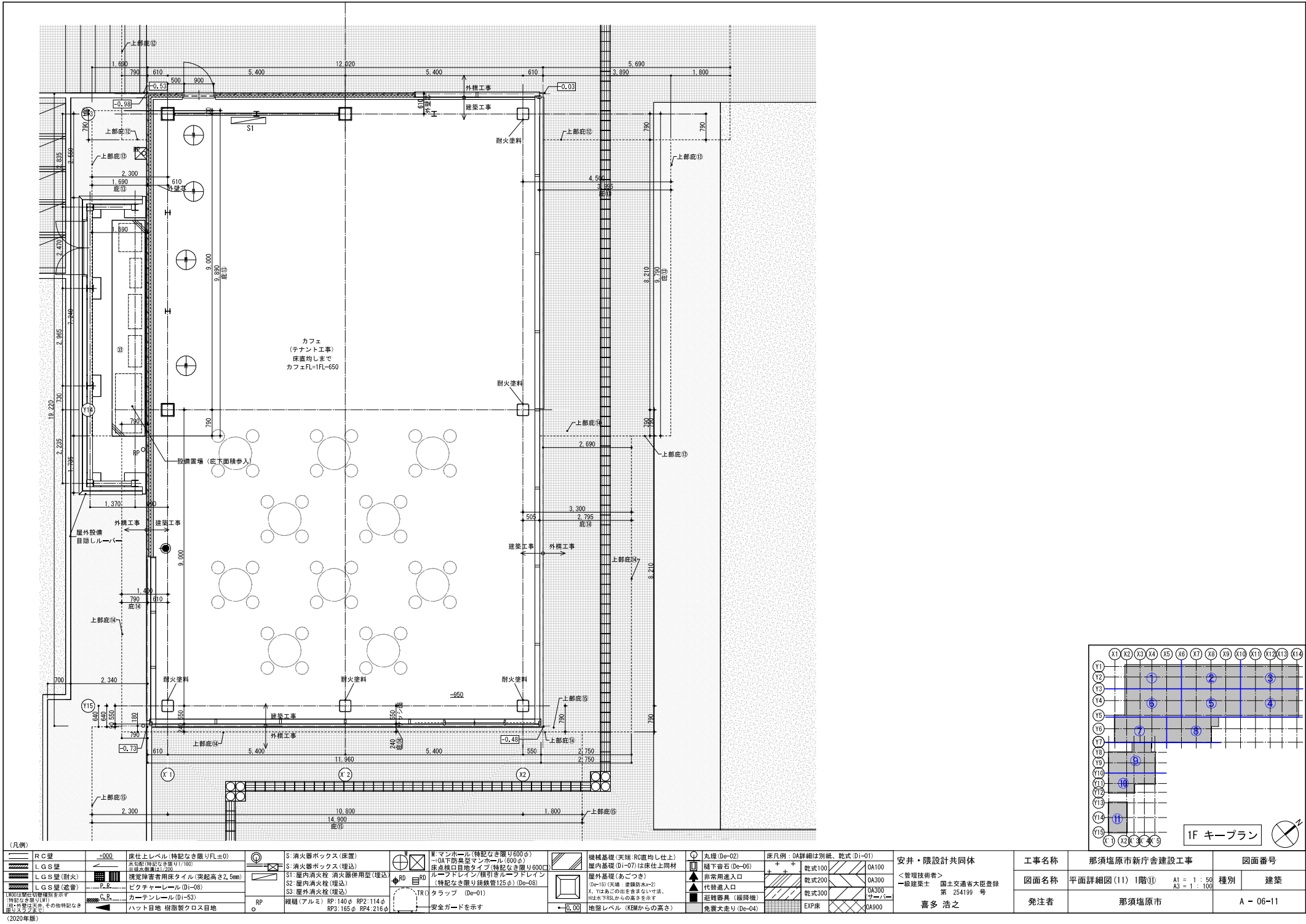
機械基礎一覧				
番号	幅	奥行	高さ	備考
①	5300	2200	150	6
②	1000	1900	300	1
③	800	1200	150	1
④	1600	1300	300	2
⑤	1900	2000	200	1
⑥	800	2000	150	2
⑦	1600	900	300	1
⑧	400	2500	500	3
⑨	1800	1400	300	1
⑩	400	1400	500	2
⑪	1400	550	300	1
⑫	1250	1250	200	1
⑬	1600	800	300	1
⑭	900	5300	200	1
⑮	4500	2500	150	1
⑯	400	400	940	94 屋上基礎 (G-22-2)
⑰	600	600	940	13 屋上基礎 (G-22-2)
⑱	1050	500	400	3 押コン立ち上げ
⑲	1600	500	400	3 押コン立ち上げ
⑳	600	600	900	81 屋上基礎 (G-22-2)
㉑	600	1085	900	24 屋上基礎 (G-22-2)
㉒	1085	1085	900	1 屋上基礎 (G-22-2)
㉓	600	1375	900	1 屋上基礎 (G-22-2)
㉔	1200	1200	900	1 屋上基礎 (G-22-2)
㉕	400	400	870	36 屋上基礎 (G-22-2)
㉖	4200	2500	150	1
㉗	900	500	400	4
㉘	1050	600	400	1
㉙	1500	1000	150	1 車庫棟 (Dg-9)
㉚	1000	1000	300	1 (Dg-9)
㉛	1200	600	300	2 車庫棟 (Dg-9)
㉜	6565	1000	300	1



※廊下204, 303, 304は欠番

凡例	RC壁	±0.00	床レベル (特記なき限りFL±0)	伸縮目地 (バラベツト 基礎あごから600 その他3,000程度)	引張りルーフトレイン (特記なき限り鉄筋管100φ)	消火器BOX (床置型)	マンホール (特記なき限り600φ)	丸窓	安井・隈設計共同体	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事	図面番号
	LG S壁		水勾配 (特記なき限り1/100) (排水側溝は1/200)	ルーフトレイン (特記なき限り鉄筋管100φ)	縦機 (アルミ) RP:140φ RP2:114φ RP3:165φ RP4:216φ	消火器BOX (壁埋込型)	床下点検口 (特記なき限り600φ)	地下窓石	<管理技術者>	図面名称	平面図1階 (庁舎)	A1 = 1 : 200 A3 = 1 : 400
	鋼製グレーチング側溝T-20普通目		排水側溝 (5-06-1) 特記無き限りW300	機械基礎 (天端: コンクリート直均し仕上) 屋内基礎は床仕上同材とする	縦機 (アルミ) RP:140φ RP2:114φ RP3:165φ RP4:216φ	S1: 屋内消火栓 消火器併用型 (壁埋込型) S2: 屋内消火栓 (壁埋込型) S3: 屋外消火栓 (壁埋込型)	出入口	代替進入口	一級建築士 国土交通省大臣登録 第 254199 号	発注者	那須塩原市	種別
	EXP床				※消火器は「粉末ABC10型消火器」とする		非常用進入口	オーバーフロー管	喜多 浩之			建築
							コーナガード (Dφ90)					A - 03-03





(凡例)

R/C壁	±0.00	床仕上げレベル(特記なき限りFL±0)
L.G.S壁	水圧配(特記なき限り1/100)	床仕上げレベル(特記なき限り1/100)
L.G.S壁(耐火)	耐火構造(特記なき限り2.0h)	床仕上げレベル(特記なき限り1/100)
L.G.S壁(遮音)	遮音構造(特記なき限り0.4)	床仕上げレベル(特記なき限り1/100)
1000W以上照明器具設置	照明器具設置	床仕上げレベル(特記なき限り1/100)
特記なき限り(注)	特記なき限り(注)	床仕上げレベル(特記なき限り1/100)
床直均しまで	床直均しまで	床仕上げレベル(特記なき限り1/100)

S: 消火器ボックス(床置)	S: 消火器ボックス(埋込)
S1: 屋内消火栓 消火器併用型(埋込)	S2: 屋内消火栓(埋込)
S3: 屋外消火栓(埋込)	
RP: 観音(アルミ) RP: 140φ RP2: 114φ RP3: 165φ RP4: 216φ	

M: マンホール(特記なき限り600φ)	M: マンホール(特記なき限り600φ)
0A: 0A下防鼠型マンホール(600φ)	0A: 0A下防鼠型マンホール(600φ)
床直均し目地タイプ(特記なき限り600φ)	床直均し目地タイプ(特記なき限り600φ)
ルーフドレーン(横引き型) (特記なき限り125φ) (De-08)	ルーフドレーン(横引き型) (特記なき限り125φ) (De-08)
トラップ (De-01)	安全ガードを示す

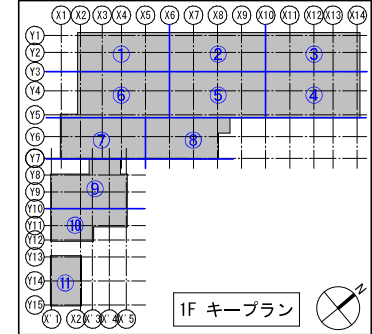
機械基礎(天端: RC直均し仕上)	機械基礎(天端: RC直均し仕上)
屋内基礎(01-07)は床直上同材	屋内基礎(01-07)は床直上同材
屋外基礎(あごつき)	屋外基礎(あごつき)
(De-15) (天端: 塗膜防水+2)	(De-15) (天端: 塗膜防水+2)
X, Yはあごの出を含まない寸法。	X, Yはあごの出を含まない寸法。
※は水下取からの高さを示す。	※は水下取からの高さを示す。
地盤レベル (KBMからの高さ)	地盤レベル (KBMからの高さ)

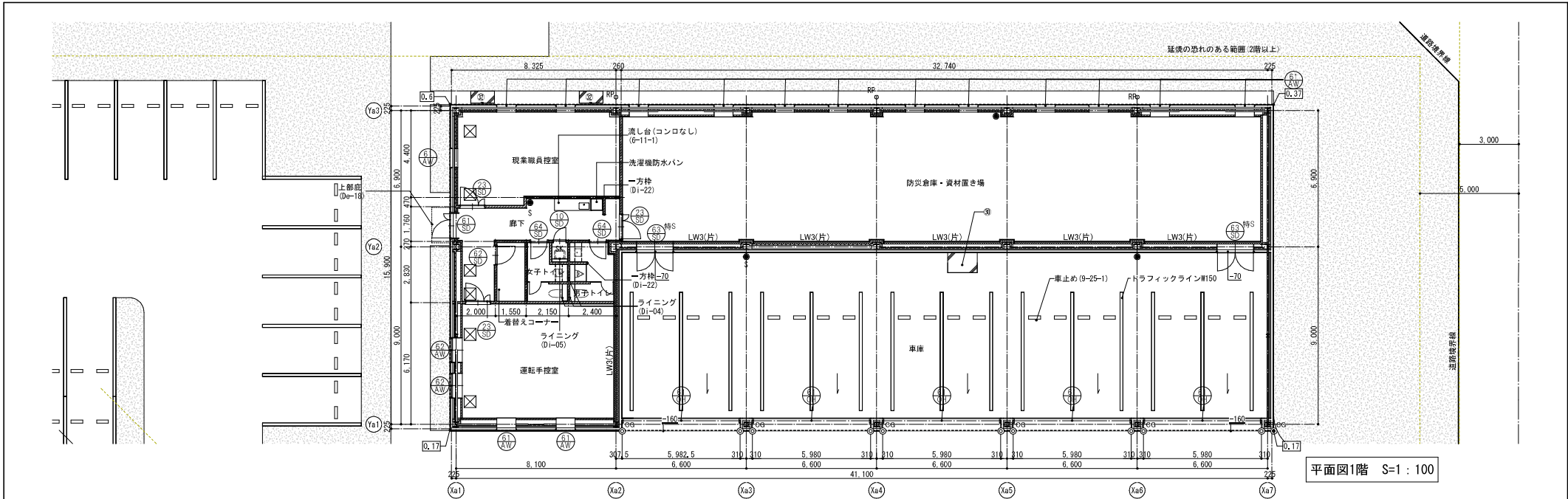
丸環 (De-02)	丸環 (De-02)
埋込管石 (De-06)	埋込管石 (De-06)
非常用出入口	非常用出入口
代替出入口	代替出入口
避難器具 (避難機)	避難器具 (避難機)
免震大走り (De-04)	免震大走り (De-04)

床凡例: 0A詳細は別紙、乾式(01-01)	床凡例: 0A詳細は別紙、乾式(01-01)
乾式100	乾式100
乾式200	乾式200
乾式300	乾式300
EXP床	EXP床
0A100	0A100
0A300	0A300
0A300	0A300
0A900	0A900

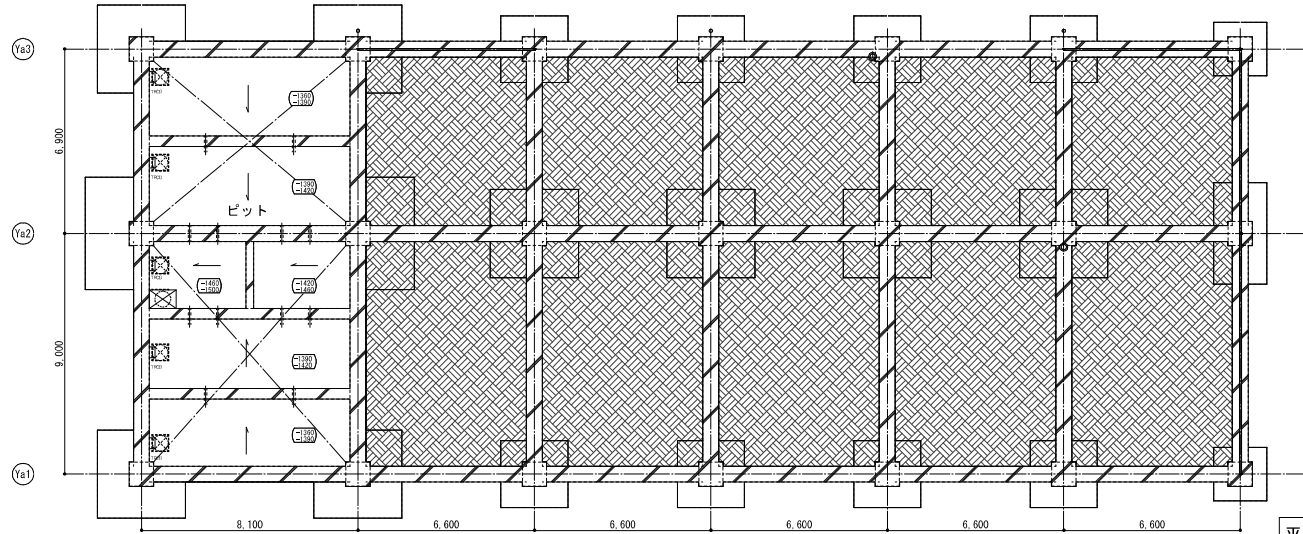
安井・隈設計共同体	安井・隈設計共同体
<管理技術者>	<管理技術者>
一級建築士 国土交通省大臣登録 第 254199 号	一級建築士 国土交通省大臣登録 第 254199 号
喜多 浩之	喜多 浩之

工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事	図面番号	図面番号
図面名称	平面詳細図(11) 1階①	A1 = 1 : 50 A3 = 1 : 100	種別 建築
発注者	那須塩原市	A - 06-11	



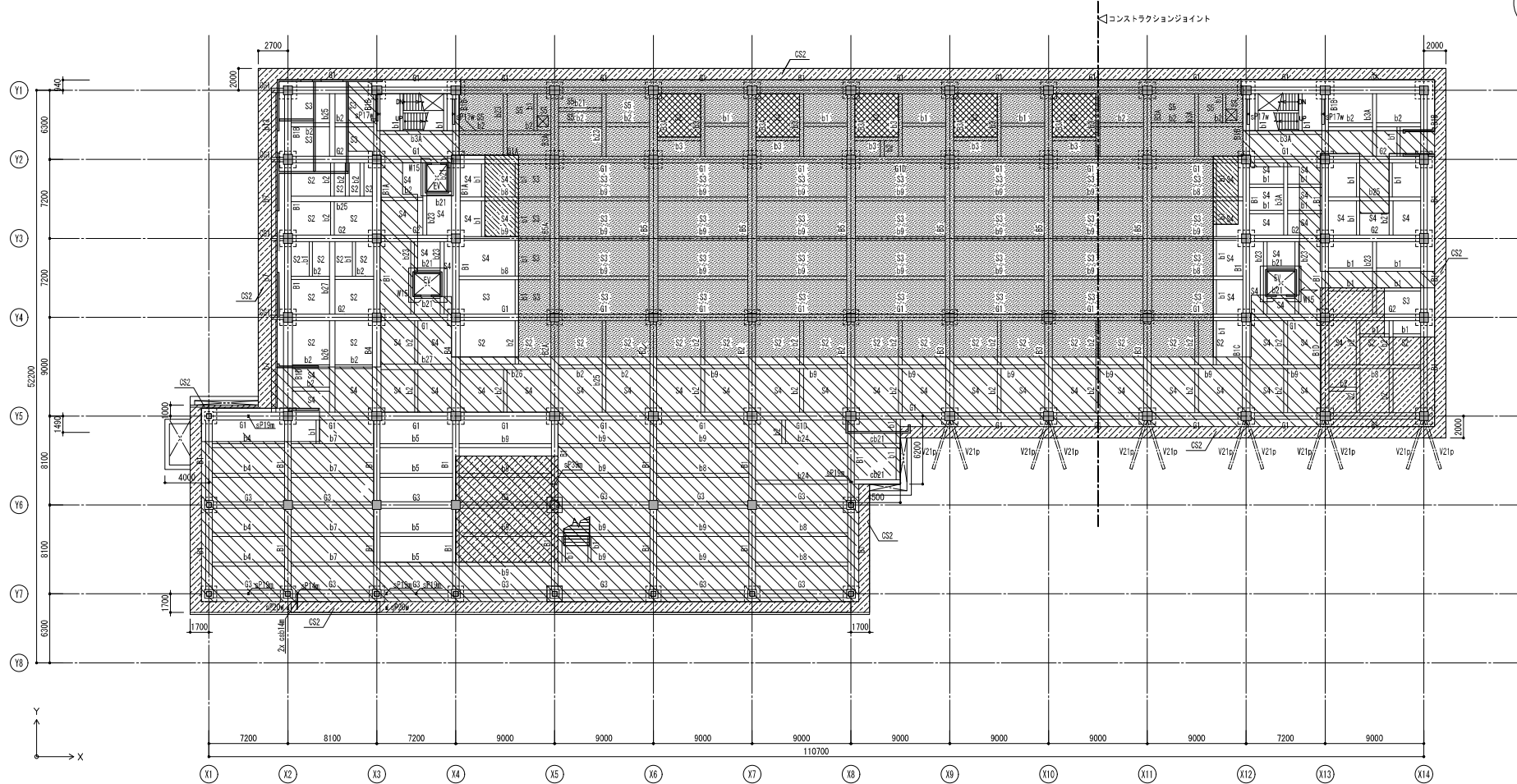


平面図1階 S=1:100



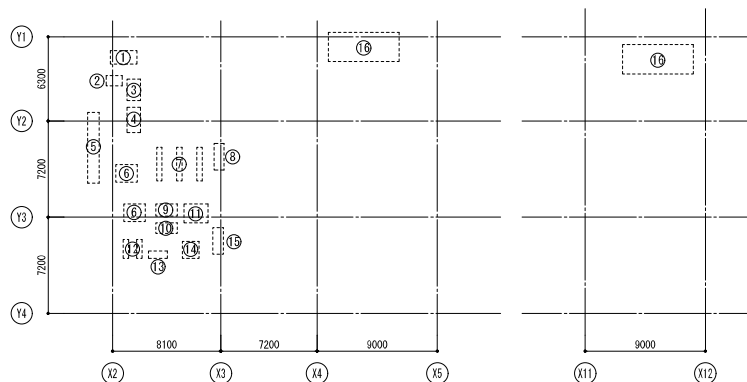
平面図ピット S=1:100

凡例		梁貫通孔 内径600φ (孔上部両面にステンレス製取っ手22φ)		断熱範囲	水勾配 (特記なき限り1/200)		縦筋 (特記なき限り鋼管125φとする) 点線は横引き管を示し、細線白(5φ)・白(17)を抜ける			
		通気管 (硬質塩ビ管 100φ)		埋め戻し (防湿フィルム有)	タラップ (特記なき限り5段) 8-31-1に準ずる		※可動式ブースは消防予第21号より消防用設備等の設置無し			
		下部に通水管 (硬質塩ビ管100φ半割) 緊急排水槽の場合は300φ半割)		上部マンホール (600φ)	この図面に表現された梁貫通孔、通気管、通水管等はピットの考え方を示すものであり、実際の施工数量は、構造共通事項の梁貫通孔補強リストによる。					
凡例		1階床下断熱範囲 (厚さ40mm) 基礎 (特記なき限りW1000×D1000×H700) コンクリート直打ち)		伸縮目地 (パラペット、基礎あごから600 その他3,000程度)		横引きルーフトレイン (特記なき限り鉄線管100φ)		マンホール (特記なき限り900φ)		丸型
		RC壁		床レベル (特記なき限り1階床)		消火器BOX (床置型)		地下点検口 (特記なき限り900φ)		地下管石
		LGS壁		水勾配 (特記なき限り1/100) (排水側溝は1/200)		消火器BOX (壁埋込型)		視覚障がい者用タイル		代替出入口
凡例		LGS壁		鋼製グレーチング側溝T-20普通通目		縦筋 (アルミ) RP:140φ RP2:114φ RP3:165φ RP4:216φ	S1: 屋内消火栓 消火器使用型 (壁埋込型) S2: 屋内消火栓 (壁埋込型) S3: 屋外消火栓 (壁埋込型)			非常用出入口
		排水側溝 (5-06-1) 特記無き限りW300		排水側溝 (5-06-1) 特記無き限りW300		近接器 (アルミ、縦埋型)	※消火器は「粉末ABC10型消火器」とする			コーナガード (Dφ900)
		EXP床		排水側溝 (5-06-1) 特記無き限りW300		近接器 (アルミ、縦埋型)	※消火器は「粉末ABC10型消火器」とする			OF ₂₂₃ オーバーフロー管



1 階設備機器伏図 1:200

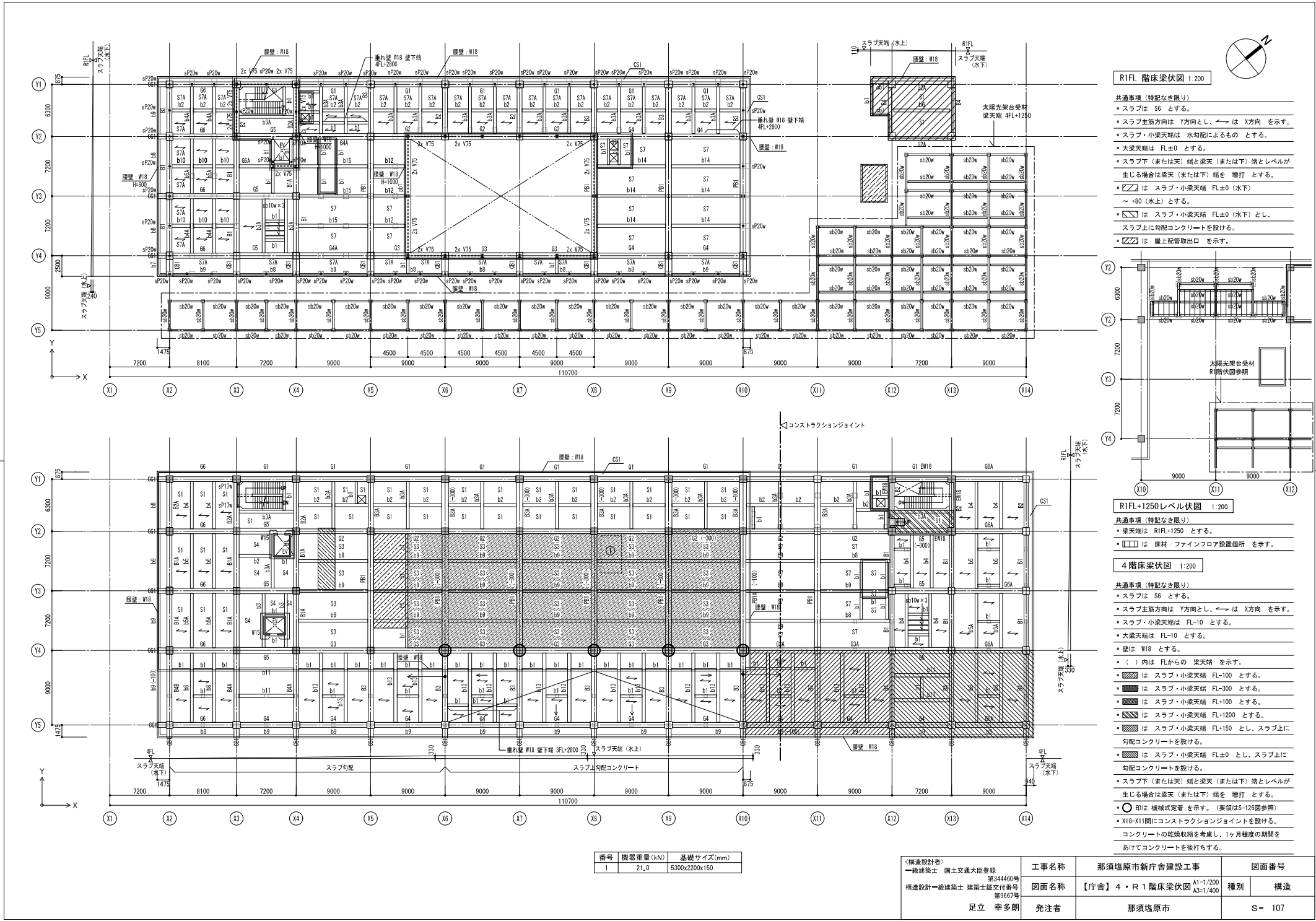
番号	機器重量 (kN)	基礎サイズ (mm)
1	2.0	1000x2000x200
2	1.0	800x1200x150
3	3.0	1000x1600x300
4	5.0	1000x1900x300
5	5.6	900x5300x200
6	3.0	1600x1300x300
7	150	400x2400x500 x3間
8	2.0	800x2000x150
9	2.0	1600x900x300
10	3.0	1600x800x300
11	4.0	1800x1400x300
12	20.0	400x1400x500 x2間
13	2.0	1400x550x300
14	20.0	1250x1250x200
15	2.0	800x2000x150
16	21.0	5300x2200x150



1 階床梁伏図 1:200

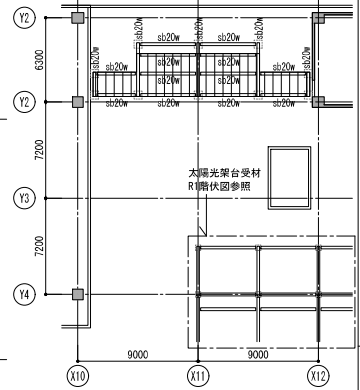
- 共通事項 (特記なき限り)
- 設計FL = T.P.+280.3 m とする。
 - IFL = 設計FL+200 とする。
 - スラブは S1 とする。
 - スラブ主筋方向は Y方向とし、←→ は X方向 を示す。
 - スラブ・小梁天端は FL-10 とする。
 - 大梁天端は FL-300 とする。
 - 壁は W18 とする。
 - スラブ・小梁天端 FL-100 とする。
 - スラブ・小梁天端 FL-300 とする。
- スラブ・小梁天端 FL-900 とする。
 - スラブ・小梁天端 FL-50 とする。
 - スラブ・小梁天端 FL+100 とする。
 - スラブ下 (または天) 端と梁天 (または下) 端とレベルが生じる場合は梁天 (または下) 端を 増打 とする。
 - X10-X11間にコンストラクションジョイントを設ける。
 - コンクリートの乾燥収縮を考慮し、1ヶ月程度の期間をあけてコンクリートを後打ちする。

〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事		図面番号	
	図面名称	【庁舎】1 階床梁伏図		A1=1/200 A3=1/400	種別
	発注者	那須塩原市			構造 S- 104



R1FL 階床梁伏図 1:200

- 共通事項 (特記なき限り)
- スラブは S6 とする。
 - スラブ主筋方向は Y方向とし、←は X方向 を示す。
 - スラブ・小梁天端は 水勾配によるもの とする。
 - 大梁天端は FL±0 とする。
 - スラブ下 (または天) 端と梁天 (または下) 端とレベルが生じる場合は梁天 (または下) 端を 増打 とする。
 - 斜線は スラブ・小梁天端 FL±0 (水下) ~+80 (水上) とする。
 - 斜線は スラブ・小梁天端 FL±0 (水下) とし、スラブ上に勾配コンクリートを敷ける。
 - 斜線は 屋上配管取出口 を示す。



R1FL+1250レベル伏図 1:200

- 共通事項 (特記なき限り)
- 梁天端は R1FL+1250 とする。
 - 斜線は 床材・ファインフロア設置箇所 を示す。

4階床梁伏図 1:200

- 共通事項 (特記なき限り)
- スラブは S6 とする。
 - スラブ主筋方向は Y方向とし、←は X方向 を示す。
 - スラブ・小梁天端は FL-10 とする。
 - 大梁天端は FL-10 とする。
 - 壁は W18 とする。
 - () 内は FLからの 梁天端 を示す。
 - 斜線は スラブ・小梁天端 FL-100 とする。
 - 斜線は スラブ・小梁天端 FL-300 とする。
 - 斜線は スラブ・小梁天端 FL-100 とする。
 - 斜線は スラブ・小梁天端 FL-1200 とする。
 - 斜線は スラブ・小梁天端 FL-150 とし、スラブ上に勾配コンクリートを敷ける。
 - 斜線は スラブ・小梁天端 FL±0 とし、スラブ上に勾配コンクリートを敷ける。
 - スラブ下 (または天) 端と梁天 (または下) 端とレベルが生じる場合は梁天 (または下) 端を 増打 とする。
 - 印は 機械式定着 を示す。(要領はS-126図参照)
 - X10-X11間にコンストラクションジョイントを敷ける。
 - コンクリートの乾燥収縮を考慮し、1ヶ月程度の期間をあけてコンクリートを後打ちする。

番号	機器重量(kN)	基礎サイズ(mm)
1	21.0	5300x2200x150

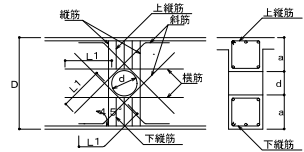
〈精査設計者〉
一級建築士 国土交通大臣登録
第344460号
精査設計一級建築士 建築士証交付番号
第9667号
足立 幸多朗

工事名称		那須塩原市新庁舎建設工事		図面番号	
図面名称	【庁舎】4・R1階床梁伏図 ^{A1=1/200} _{A3=1/400}			種別	構造
発注者	那須塩原市			S- 107	

梁貫通孔補強要領

- 共通事項（特記なき限り）
- 梁貫通孔補強は下記要領に従い、行うこととする。
 - 鉄筋コンクリート梁貫通孔補強は 監督職員の承認を受け、既製品（大臣認定品）による補強も使用可とする。ただし、既製品による補強が現補強同等以上であることを提示し 監督職員の承認を得ること。
 - 補強計算は無孔梁のせん断耐力を保証するものとし、梁端 M_u 時に基づくせん断力式は用いない。
 - 鉄骨梁部分の梁貫通補強はS-07図による。

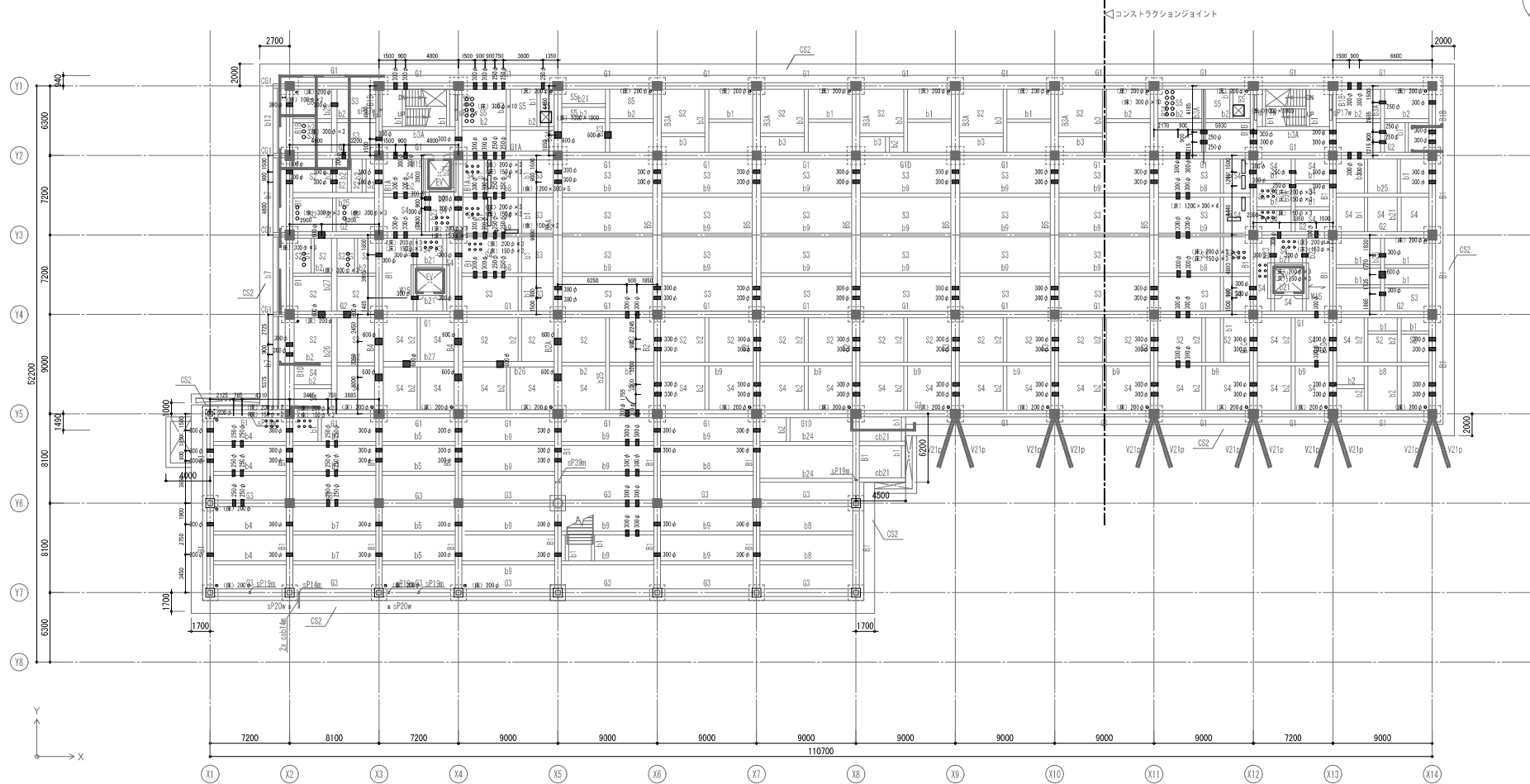
- (a) 鉄筋コンクリート部分の梁貫通孔補強
- 梁貫通孔位置 補強対象孔については S-02図 に準じる。
(1階梁は原則、150φ超の貫通孔は柱面から1.0m程度以内貫通不可)
 - ピットの連通管100φ、通気管150φ（半割）の位置は意匠図による。（補強不要）
 - 貫通孔径150φ未満で、補強を必要とする場合は補強筋の配筋種類は HI とする。



H形配筋					
配筋種類	補 強 筋				配筋図
	斜 筋	縦 筋	横 筋	上下 縦筋	
H 1		—	—	—	
H 2	2-2-D13	2-2-D13			
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		
H 4	4-2-D16				
H 5	4-2-D16				
H 6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 7	4-2-D22				
H 8	4-2-D25	4-2-D16	2-2-D16	3-2-D16	
H 9	4-2-D29				
H 10	4-3-D29	4-3-D16	2-3-D16	3-2-D16	
H 1 1	4-3-D32				
H 1 2		4-4-D16	2-4-D16	3-2-D16	
H 1 3	4-4-D32	4-4-D19			
H 1 4		4-5-D19			
H 1 5	4-5-D32	4-5-D22	2-5-D16	3-2-D16	

鉄筋コンクリート梁貫通補強リスト															
1階梁				2階梁				3階梁				4階梁			
符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類	符号
G1	250φ	H6	G2A	300φ	H4	G2A	300φ	H5	G2	300φ	H4	G2	300φ	H5	b3
	300φ	H7	G3	300φ	H5	G3	300φ	H5	G3	300φ	H6	G3	300φ	H4	b3A
G1A	250φ	H6	G4	300φ	H6	G3A	300φ	H6	G3A	300φ	H5	G4	300φ	H5	b4
	300φ	H6	G5	250φ	H6	G5	250φ	H5	G5	250φ	H4	G4A	300φ	H5	b4A
G2	300φ	H6	G6A	300φ	H7	G6	300φ	H5	G6	300φ	H5	G5	250φ	H3	b5
	600φ	H8	G6B	300φ	H8	B1	250φ	H4	G6A	300φ	H5	G6	300φ	H3	b5A
G3	250φ	H5	B1	250φ	H4	B1A	250φ	H4	B1	250φ	H3	G6A	250φ	H5	b6
B1	300φ	H6	B1A	250φ	H4	B2	250φ	H4	B1A	250φ	H5	B1	250φ	H3	b7
B1A	300φ	H6	B2	250φ	H7	B2A	250φ	H5	B2	250φ	H4	B2	250φ	H4	
B1B	300φ	H6	B2A	250φ	H7	B3	275φ	H5	B2A	250φ	H4	B3	250φ	H3	b7A
B1C	300φ	H6	B3A	300φ	H5	B3A	275φ	H5	B3	275φ	H3				b8
B1D	300φ	H6	B4A	300φ	H6	B4	275φ	H4	B3A	275φ	H4				250φ
B2	300φ	H7				B4A	275φ	H5	B4	275φ	H4				300φ
B2A	600φ	H9							B4A	275φ	H5				250φ
B3	300φ	H7													300φ
B3A	600φ	H9													
B4	600φ	H9													
B5	300φ	H7													
B5A	300φ	H7													

〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事	図面番号	
	図面名称	【庁舎】梁貫通要領	種別	構造
	発注者	那須塩原市	S- 151	



1階床梁伏図 1:200

- 共通事項 (特記なき限り)
- 設計値 = T.P.+280.3 m とする。
 - 1FL = 設計値+200 とする。
 - スラブは S1 とする。
 - スラブ主筋方向は Y方向とし、←→ は X方向 を示す。
 - スラブ・小梁天端は FL-10 とする。
 - 大梁天端は FL-300 とする。
 - 壁は W18 とする。
 - は スラブ・小梁天端 FL-100 とする。
 - は スラブ・小梁天端 FL-300 とする。
 - は スラブ・小梁天端 FL-900 とする。
 - は スラブ・小梁天端 FL-50 とする。
 - は スラブ・小梁天端 FL+100 とする。
 - スラブ下 (または天) 端と梁天 (または下) 端とレベルが生じる場合は梁天 (または下) 端を 増打 とする。
 - X10-X11間にコンストラクションジョイントを設ける。
 - コンクリートの乾燥収縮を考慮し、1ヶ月程度の期間をあけてコンクリートを後打ちする。

〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事		図面番号	
	図面名称	【庁舎】1階梁貫通伏図	A1=1/200 A3=1/400	種別	構造
発注者	那須塩原市			S- 152	

梁貫通孔補強要領

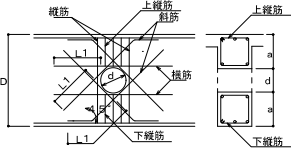
共通事項（特記なき限り）

- 梁貫通孔補強は下記要領に従い、行うこととする。
- 鉄筋コンクリート梁貫通孔補強は 監督職員の承諾を受け、既製品（大臣認定品）による補強も使用可とする。ただし、既製品による補強が現補強同等以上であることを提示し 監督職員の承諾を得ること。
- 補強計算は無孔梁のせん断耐力を保証するものとし、梁端部μ時に基づくせん断力式は用いない。

鉄骨梁部分の梁貫通補強はS-07図による。

(a) 鉄筋コンクリート部分の梁貫通孔補強

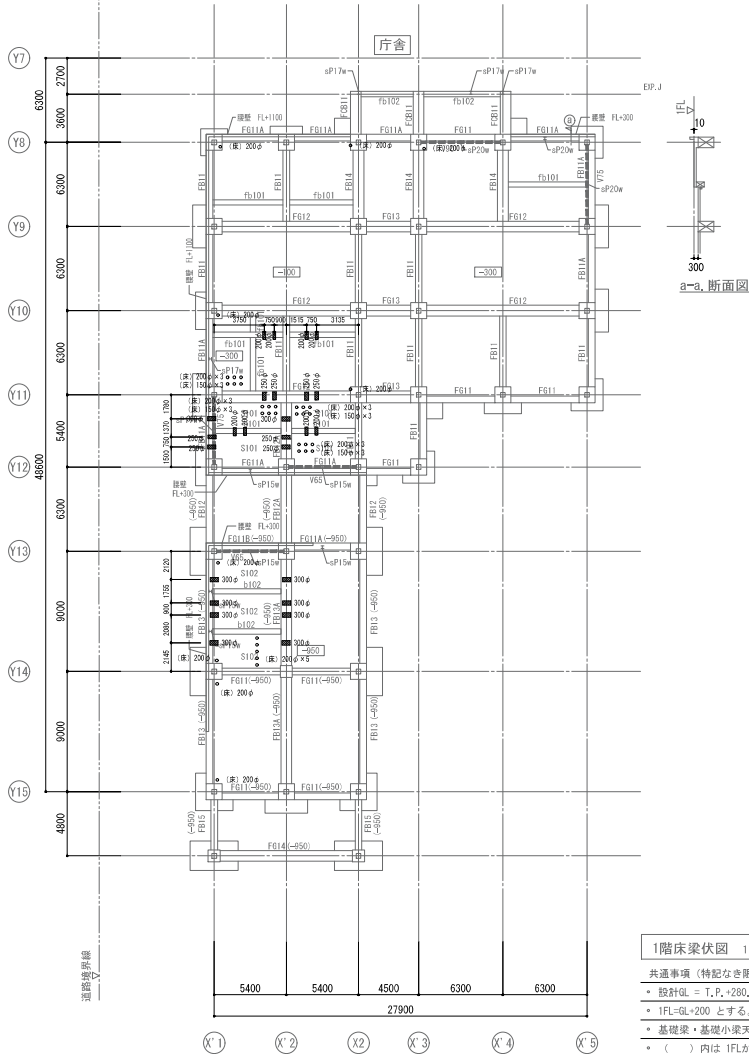
- 梁貫通孔位置 補強対象孔については S-02図 に準じる。
(1階梁は原則、150φ超の貫通孔は柱面から1.0m程度以内貫通不可)
- ピットの連通管100φ、通気管150φ（半割）の位置は意匠図による。（補強不要）



鉄筋コンクリート梁貫通補強リスト

1階梁				
符号	サイズ	配筋種類		
FG12	250φ	H5		
FB11A	250φ	H3		
	300φ	H4		
FB12A	250φ	H5		
	300φ	H5		
FB13	300φ	H4		
FB13A	300φ	H5		
b101	200φ	H3		
fb101	200φ	H3		

H形配筋				
配筋種類	補 強 筋			配筋図
	斜 筋	縦 筋	横 筋	
H 1	2-2-D13	—	—	
H 2	2-2-D13	2-2-D13	—	
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	
H 5	4-2-D16	—	—	
H 6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	
H 7	4-2-D22	2-2-D13	3-2-D13	
H 8	4-2-D25	4-2-D16	2-2-D16	
H 9	4-2-D29	2-2-D16	3-2-D16	
H 10	4-3-D29	4-3-D16	2-3-D16	
H 11	4-3-D32	4-4-D16	3-2-D16	
H 12	4-4-D32	4-4-D19	3-2-D16	
H 13	4-4-D32	4-5-D19	2-5-D16	
H 14	4-5-D32	4-5-D22	3-2-D16	
H 15	4-5-D32	4-5-D22	3-2-D16	

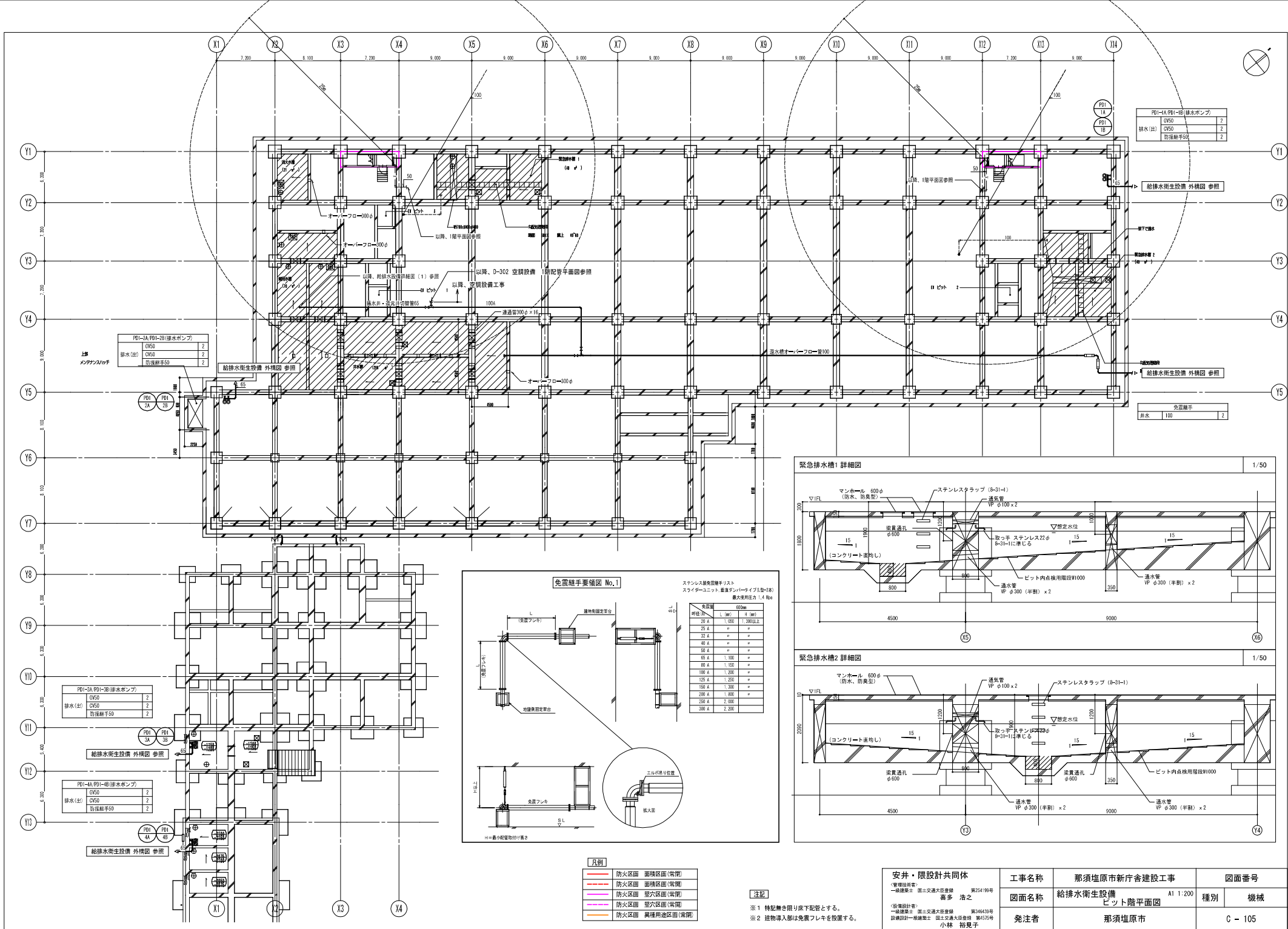


1階床梁伏図 1 : 400

共通事項（特記なき限り）

- 設計GL = T.F.+280, 3m とする。
- 1FL=GL+200 とする。
- 基礎梁・基礎小梁天端は 1FL+300 とする。
- () 内は 1FLからの梁天端を示す。
- スラブは 土間コンクリート NS101 とする。
- スラブ天端は FL+10、小梁天端は FL+160 とする。
- 印は スラブ天端 FL+50 とする。
- 印は スラブ天端 FL+100 とする。
- 印は スラブ天端 FL+300 とする。
- 印は スラブ・小梁天端 FL+950 とする。
- 印は FL+10から FL+100まで スラブ増打とする。
- 印は 壁壁 を示す。

〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事		図面番号	
	図面名称	【市民ゾーン】梁貫通伏図		A1=1/200 A3=1/400	種別
	発注者	那須塩原市		S- 210	



PB1-1A PB1-1B (排水ポンプ)		
排水 (出)	QV50	2
	QV50	2
防漏継手50		2

PB1-2A PB1-2B (排水ポンプ)		
排水 (出)	QV50	2
	QV50	2
防漏継手50		2

緊急排水槽		
排水	100	2

PB1-3A PB1-3B (排水ポンプ)		
排水 (出)	QV50	2
	QV50	2
防漏継手50		2

PB1-4A PB1-4B (排水ポンプ)		
排水 (出)	QV50	2
	QV50	2
防漏継手50		2

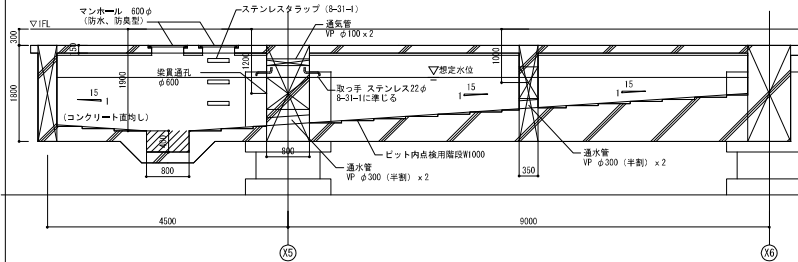
ステンレス製免震スリット スライダユニット 高さダンパータイプ (2-2B) 最大使用圧力: 1.4 MPa				
呼び径 (φ)	L (mm)	4 (mm)	6 (mm)	
20 A	1,050	1,300以上		
25 A	"	"		
32 A	"	"		
40 A	"	"		
50 A	"	"		
65 A	1,300	"		
80 A	1,150	"		
100 A	1,200	"		
125 A	1,250	"		
150 A	1,300	"		
200 A	1,800	"		
250 A	2,000	"		
300 A	2,200	"		

凡例	
防火区画 面積区画 (常開)	
防火区画 面積区画 (常閉)	
防火区画 壁穴区画 (常開)	
防火区画 壁穴区画 (常閉)	
防火区画 異種用途区画 (常開)	

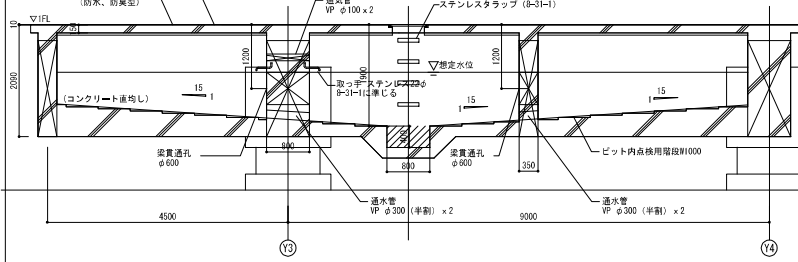
注記

- ※1 特記無き限り床下配管とする。
※2 建物導入部は免震フレキシを設置する。

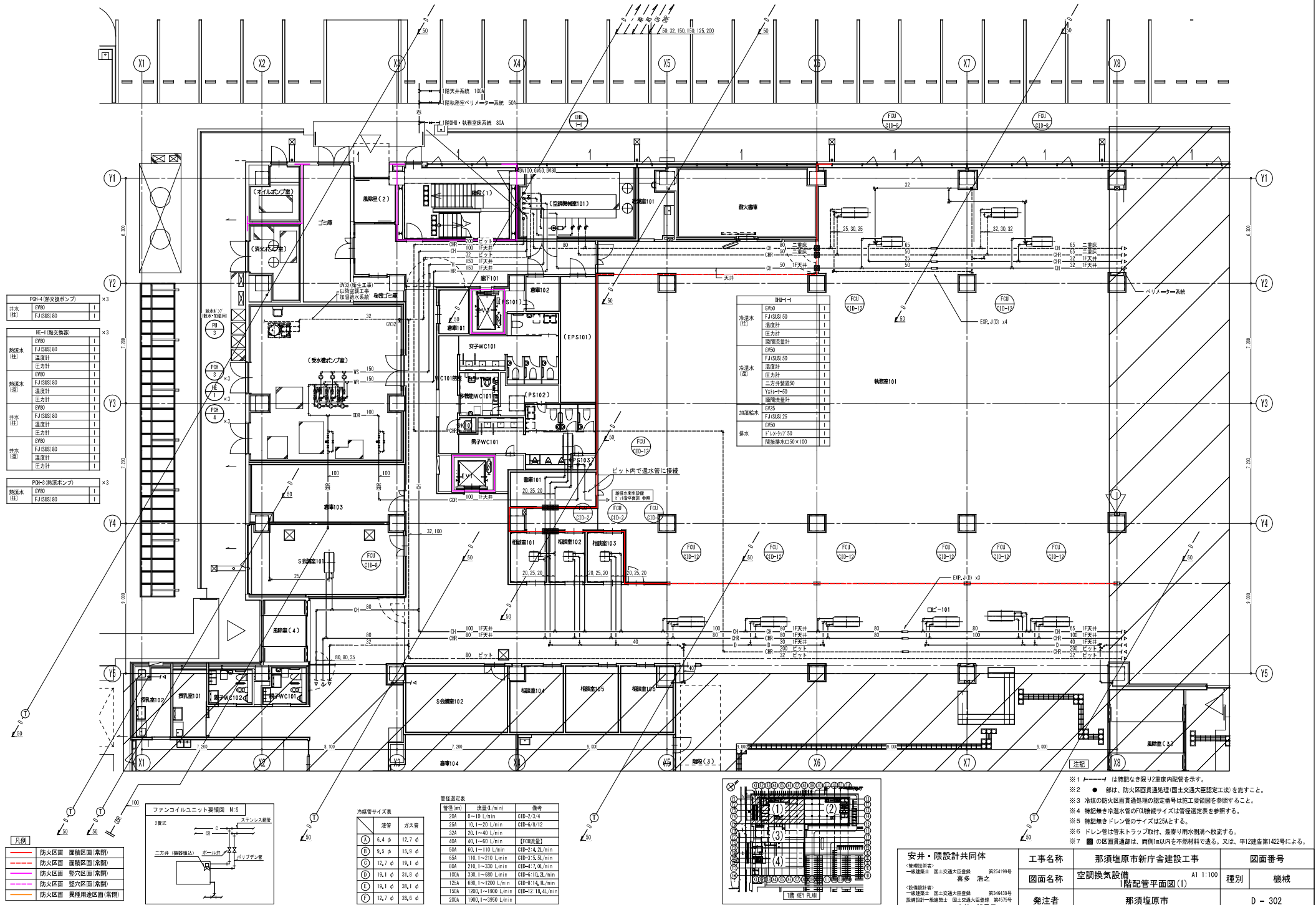
緊急排水槽1 詳細図 1/50



緊急排水槽2 詳細図 1/50



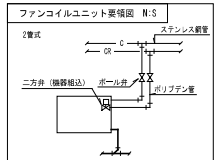
安井・隈設計共同体 〈管理担当者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第254199号 喜多 浩之 〈設備設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第346438号 設備設計一級建築士 国土交通大臣登録 第4572号 小林 裕見子	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事	図面番号	
	図面名称	給排水衛生設備 ビット階平面図	A1 1:200	種別 機械
	発注者	那須塩原市	C - 105	



- ※1 〓は特記なき限り2重床内配管を示す。
- ※2 〓部は、防火区画貫通処理(国土交通大臣認定工法)を施すこと。
- ※3 冷媒の防火区画貫通処理の認定番号は施工要領図を参照すること。
- ※4 特記無き冷温水管のFUI接続サイズは管径選定表を参照する。
- ※5 特記無きドレン管のサイズは25Aとする。
- ※6 ドレン管は管末トラップ取付、設置り雨水側溝へ放流する。
- ※7 〓の区画貫通部は、両側1m以内を不燃材料で遮る。又は、平12建第142号による。

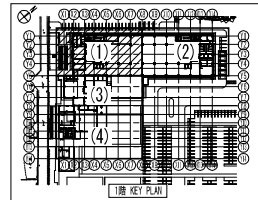
安井・隈設計共同体 一級建築士 国土交通大臣登録 第25419号 喜多 浩之 二級建築士 国土交通大臣登録 第34643号 設備設計一級建築士 国土交通大臣登録 第4572号 小林 裕見子	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事		図面番号	A1 1:100 種別 機械
	図面名称	空調換気設備 1階配管平面図(1)			
	発注者	那須塩原市			

凡例
防火区画 避難区画(常閉)
防火区画 避難区画(常開)
防火区画 壁穴区画(常閉)
防火区画 壁穴区画(常開)
防火区画 翼種用途区画(常開)



管径 (mm)	冷水管 (mm)	排水管 (mm)
25A	10, 15, 20	12, 15, 20
32A	20, 25, 32	25, 32, 40
40A	25, 32, 40	32, 40, 50
50A	32, 40, 50	40, 50, 60
65A	40, 50, 60	50, 60, 75
80A	50, 60, 75	60, 75, 90
100A	60, 75, 90	75, 90, 110
125A	75, 90, 110	90, 110, 125
150A	90, 110, 125	110, 125, 150
200A	110, 125, 150	125, 150, 200

管径 (mm)	流量 (L/min)	備考
25A	0~10	CIB-2/2/4
32A	10~20	CIB-2/2/4
40A	20~30	CIB-2/2/4
50A	30~40	CIB-2/2/4
65A	40~50	CIB-2/2/4
80A	50~60	CIB-2/2/4
100A	60~70	CIB-2/2/4
125A	70~80	CIB-2/2/4
150A	80~90	CIB-2/2/4
200A	90~100	CIB-2/2/4



フローリング断面詳細参考図

